研 修 報 告 書

研修内容：東日本大震災復興支援 第46回全国ミニバスケットボール大会視察

研 修 日：平成27年3月28日～平成27年3月30日

場 所：国立代々木競技場体育館（東京都）

報 告 者：生野ミニバスケットボールスポーツ少年団 コーチ 田中 隆

日 時：平成 27 年 3 月 28 日 10:30
 場 所：国立代々木競技場 第 1 体育館 Dコート
 対 戦：生野（山口） v s 明城（兵庫） 女子
 結 果：

対 戦	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	合計
生 野	8	2	4	6	20
明 城	8	6	12	12	38

1 Q 生野はゾーンプレス・ディフェンス、対する明城はハーフコートのマンツーマン・ディフェンス。両チーム動きが良く点の取り合いとなった。
 2 Q 生野はハーフコートの 2-1-2 ゾーン、明城はハーフコートのマンツーマン・ディフェンス。生野は明城のマンツーマンディフェンスを崩しきれず、# 4 の 2 点のみ。
 3 Q 両チームマンツーマン・ディフェンス、明城は # 8 のアウトサイド、# 5 のインサイドを軸にオフェンスが機能し 12 得点、対する生野はオフェンスリズムが悪く # 10, # 4 の 4 点のみ。
 4 Q 生野は、ゾーンプレス・ディフェンスで逆転をねらうが、明城は落ち着いてかわす。生野のオフェンスリズムが良くなならないため、開始 45 秒タイムアウトを要求。その後明城は、生野のゾーンプレス・ディフェンスに数回カットされるものの、その後は落ち着いてパスやドリブルで交わし、さらにリードを許し、18 点差の惨敗。

日 時：平成 27 年 3 月 28 日 14:50
 場 所：国立代々木競技場 第 2 体育館 Fコート
 対 戦：明城（兵庫） v s 中津三光（大分） 女子
 結 果：

対 戦	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	合計
明 城	6	12	12	18	48
中津三光	3	6	2	14	25

1 Q 明城は生野戦同様、マンツーマン・ディフェンス、対する中津三光は、ハーフコートの 2-1-2 ゾーン。開始から 1 分 20 秒中津三光 # 7 ドライブからのステップ・ショットでファールをもらいフリースロー。リングに嫌われ得点成らず。
 残り時間 4 : 14 明城 # 9 スチールからの速攻。# 10 とのワンツーからのジャンプショットを外すも、# 4 がリバウンドを拾い初得点。
 中津三光は、ゾーンでインサイドを警戒しているものの、リバウンドのボックスアウトが出来ていなく、明城 # 4 にオフェンス・リバウンドを取られる場面が数回あった。
 2 Q 終始明城ペースで流れ、前半 明城 18-9 中津三光 と明城リード。
 3 Q 中津三光の 2-1-2 ゾーンに対し、明城は、# 8 のアウトサイドが決まる。
 明城 # 4, 5 のインサイドに対し、中津三光は、ボディチェック、ボックスアウトもなく簡単にボールを持たせるため、明城ペースでリードはさらに広がる。
 4 Q 後がない中津三光は、1-2-1-1 のゾーンプレス・ディフェンスで前からプレッシャーをかける。オフェンスリズムも良くなり、明城のマンツーマン・ディフェンスを崩す場面も見られ、追い上げを図るが一步及ばず、明城勝利。

日 時：平成 27 年 3 月 29 日 12:45
 場 所：国立代々木競技場 第 1 体育館 Bコート
 対 戦：中津三光（大分） v s 生野（山口） 女子
 結 果：

対 戦	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	合計
中津三光	2	2	6	10	20
生 野	6	8	12	12	38

生野は 1 Q から 1-2-1-1 のゾーンプレス・ディフェンスで、中津三光にプレッシャーをかける。1, 2 Q を 4 点に抑えるディフェンスで、前半を 10 点リードで折り返す。3 Q に入り、両チームマンツーマン・ディフェンス。生野 #6 のドライブインによるバスケットカウントから流れをつかみ、ディフェンスも良くなり、スチールからの速攻などで、3 Q さらに点差を広げる。4 Q、中津三光も追い上げるため 1-2-1-1 のゾーンプレス・ディフェンスで前からあたるが、生野は落ち着いてボールをさばき逃げ切った。

日 時：平成 27 年 3 月 29 日 16:00
 場 所：国立代々木競技場 第 2 体育館 Fコート
 対 戦：城西（熊本） v s 上宇部（山口） 男子
 結 果：

対 戦	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	合計
城 西	4	4	12	8	28
上宇部	11	9	9	9	38

上宇部は、城西 #5（177cm）をどう押さえるかが鍵になるであろうと思われた。前半、上宇部は、ボールマンに対して素早く、ねばり強いディフェンスで、相手のミスを誘い、スチールからの速攻で得点を重ねリズムに乗り 12 点リードで折り返す。後半に入っても、#5 にボールを持たせない、持たせても厳しくあたり、最後まで #5 からのプレイをさせなかった。小さな上宇部らしい、スピードのあるバスケットで勝利した。

日 時：平成 27 年 3 月 30 日 11:40
 場 所：国立代々木競技場 第 1 体育館 Dコート
 対 戦：上宇部（山口） v s 長町南小（宮城） 男子
 結 果：

対 戦	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	合計
上宇部	8	9	5	2	24
上宇部	8	14	11	8	41

前半、両チーム動きが良く点の取り合いとなり、長町南小 5 点リードされ前半を折り返す。後半に入り、上宇部は、長町南小の 2-1-2 ゾーン・ディフェンス対し、アウトサイドの

展開からのシュートやドライブ・シュートを放つも、リングに嫌われなかなか得点が伸びない、対する長町南小は、# 8, # 9のインサイドを警戒すると# 4がドライブで切り込んでくるなど多彩なオフェンスで得点を重ねる。上宇部のスピードをゾーン・ディフェンスで抑えた長町南小の勝利となった。

その他の試合も観戦させて頂きましたが、男女とも白熱したレベルの高い試合が繰り広げられ、どの選手もボールを必至に追いかけ、最後まであきらめずにプレーする姿に感動しました。やはり、決勝にあがってくるチームは、選手全員の基礎がしっかり出来ていると感じました。ボールミート、ハンドリング、広い視野、スピードなど個人スキルの高さに加え、セットプレー、ゾーン・プレス・ディフェンスなどのチームプレーなど随所でレベルの高さを感じました。

最後になりましたが、本研修に参加させて頂くあたり、関係各位の皆様には多大なご支援、ご鞭撻を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。
本当にありがとうございました。